

ダイジェスト！ 一般質問

3月定例会
一般質問ダイジェスト！

公園について

Q 特色のある公園を造る意味において、公園の所管替えをするべきではないか。

A ノウハウを分散させることは非効率だが、一方でニーズを吸い上げることが容易ではないと考える。

Q 子育て世代のニーズ等のミスマッチが、公園の不満の原因ではないか。

A 八幡公園に知育型遊具等を設置している。総合運動公園にも体験型アスレチック遊具を設置するなど、今後も市民の皆様から喜んでもらえる整備に努める。指摘を踏まえ整備費用等も鑑みながら魅力的な公園づくりを推進する。

Q 公園のアンケート調査を行った形跡がないがその理由は何か。

A 一ノ木戸ポプラ公園、条南あおば

公園等は主に地域の方に遊具増設に際して実施した。指摘を踏まえ、アンケートを含めて様々な機会において市民の皆様の意見を聞き、魅力ある公園整備に努めてまいりたい。



市内の公園に設置された遊具

発達障がいについて

Q 近隣自治体と連携をして県立吉田病院の小児医療、子どもの心の診療、発達障がい等の診療は拡充強化を求めるべきではないか。

A 新潟市、長岡市の医療機関に通院せざるを得ない状況は市も把握している。今後も考えられる様々な機会を捉えて引き続き働きかけていきたい。

国道289号八十里越区間の開通について

Q 開通を見据えた広域観光についての取り組みは何か。

A 秘境八十里越体感バスの運行があり、下田地域の農家と只見町の酒造メーカーで米焼酎作りがスタートした。令和3年度は、該当エリアの専用ウェブサイトの構築、下田地域と只見町をつなぐ八十里越ロングトレイルツアーを予定している。

Q 国道290号の交通量増加への対策は何か。

A 桑切から長沢付近にかけての通学路には歩道が整備されていない区間があり、管轄する新潟県と道路改良の事業化へ向け検討中である。

消防団について

Q 市長の消防団についての考えを問う。

A 役割の大きさ、大切さを痛感しており、維持、存続が極めて重要である。再編計画は順調に推移しており、消防力を維持できる見込み。また、市立大学や看護・医療・歯科衛生専門

学校と連携して、学生消防団を結成し、維持存続に努める。

Q 総合演習ができなかった影響はないのか。

A 方面隊、分団単位で演習等を実施しているため、直接的な影響はない。

三条市の教育行政の在り方と小中一貫教育の見直しについて

Q 財政悪化が続く中、新潟県の指導を仰ぎ、新潟県と連携した持続可能な三条市の教育行政の在り方はどうか。

A 県と市は法制度上対等であり、三条市の教育行政に対して県の教育委員会が指導する立場にはない。なお、三条市教育委員会は新潟県教育委員会と常に情報交換をしており、三条市の教育行政に対し深い理解と協力を得ているものと考えている。

Q 大崎学園を除く全小学校では卒業式が行われ、多くの6年生は卒業証書を手し、思い出や中学校への希望と期待に胸膨らませるのに対し、大崎学園は義務教育学校ということから、卒業証書が授与されない。

機会平等の原則からも、常識に照らした小中一貫教育制度に見直しはどうか。

A 義務教育学校においては、前期課程6年、後期課程3年で区分しており、前期課程を修了しても9年間を終えるものではないことから、卒業証書は授与されない。子どもたちの学びの一つの節目として自ら成長を実感し、次のステップにつながるように修了式を行っている。内容や形式は卒業式と変わらない感動的なものであると考えている。前期課程修了の節目としてふさわしい式典となるよう引き続き検討していきたい。

断らない相談窓口支援について

Q 令和元年5月から開設している地域包括ケア総合推進センターの取り組み状況はどうか。

A 総合調整役を担っており医療、介護の専門職から73件の複合的な課題を抱える困難ケース等の相談が寄せられている。

Q 地域の相談支援の取り組みはどうか。

A 制度や分野を越え、包括的、重層

的な支援体制の構築が求められる。さまざまな支援の入口である相談体制の充実が不可欠である。



令和元年5月開設の地域包括ケア総合推進センター

フードドライブの取り組みについて

Q コロナ禍で食品が集まったのか。課題や成果はどうか。

A 米187キロ、乾麺、缶詰等で合計780キロ分の食料品が集まった。新たな社会貢献活動としての芽生えを実感している。

脱炭素社会に向けての取り組みについて

Q 国では、2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする宣言をした。当市の温暖化対策の取り組みはどうか。

A 国の動向を踏まえ、財政的な措置も注視しつつ、当地域の特性も充分考慮しながら今後検討をしていきたい。



フードドライブで集まった食品

教育行政について

Q 少人数学級について、現状と課題はどうか。

A 少人数学級については、現状と課題はどうか。

農業政策

Q 今後の中山間地域農業への支援とこれまでの取り組みへのフォローを問う。

A 主体的な生産・販売の促進に向け支援を行い高付加価値化に向け取り組む。